

ぶつきょうつうしん ジークアックス ぶつきょう うらぼんえ がつ
仏教通信「現代アニメ『GQuuuuuuX』と仏教の「盂蘭盆会」」7月号

きんねんまれ み きどうせんしガンダム あ さくひん ねん ほうえい
近年稀に見るヒットをしたアニメとして、『機動戦士Gundam GQuuuuuuX（ジークアックス）』が挙げられます。この作品は、1979年に放映さ
れた「機動戦士ガンダム」のif（もしも）世界を舞台にした物語です。具体的には、1979年の「（通称）ファーストガンダム」の物語
（宇宙移民政権と地球政権の戦争）をベースに、もし別の歴史を辿っていたら…というif設定で物語が展開されます。この『ジークアク
ス』が提示する世界観は、原作者の富野由悠季監督が手がけた『機動戦士ガンダム シリーズ』、『伝説巨神イデオン(1980年)』等に見られ
る「人の業（権力欲・嫉妬・執着）の愚かさをあらわにし、その業にとらわれている限り人類は傷つけあう」「肉体（物質）を超えた先
にある魂の共鳴こそ人類の希望」というテーマは、子ども向きアニメを超えた哲学的様相を示していました。今回の仏教通信は、
そこに日本の伝統的な仏教行事の盂蘭盆会（お盆）の思想を重ねてみたいと思います。

まず、『ジークアックス』の「if世界」は、仏教の「縁起」の思想に通じます。仏教では、すべての存在は相互に関係・影響し合い、因果
関係によって成り立っているとされます。敵味方も、それぞれの立場や環境、過去の因縁によって行動しており、絶対的な「悪」は存在
しません。『ジークアックス』における「もし正史と違う選択を行い、別の歴史を辿っていたら」という設定は、まさに「縁起」によって無数
の可能性が広がる様を示しています。また、このアニメの主人公マチュの敵味方双方に、人間性の光と闇が入り混じって描かれている
点が現代的解釈だと感じました。これは、登場人物たちが善悪の単純な二元論では語れない、複雑な関係性で描かれ、仏教的な
「縁起」の思想である互いに関わり合いながら生きる存在であり、その行動原理は「愛情」や「希望」といった肯定的な感情だけでな
く、「憎しみ」や「嫉妬」といった負の感情によっても突き動かされていきます。敵味方という立場を超え、「人間」が持つ多様な感情
や欲求が浮き彫りになることで、『ジークアックス』は単なる勧善懲悪の物語ではない、より深い人間ドラマを描き出していたと感じ
ました。そして「ガンダム」で使用される用語の「ニュータイプ(精神の相互理解ができる進化した人類)」とは、他者の苦しみを共有し、
共に乗り越えようとする「慈悲」と「智慧」を語るSF物語だと私は理解しました。

7月15日に行われる「盂蘭盆会」は、亡くなった自分の親族・知人を偲び、感謝と敬意を表すのはもちろ
ん、祖先達の過去の選択が現在の「私」の命を形作り、未来の子孫へと受け渡されていくという壮大な
「生命の連なり」を改めて気づかせてくれます。全ての存在が互いに縁起によって結ばれているということ
を感じながら、「お盆」を大切にお過ごしください。合掌

ことし うらぼんえ がつ にち か おこな ぶつせつあみだきょう どきょう
今年の盂蘭盆会は7月15日(火)に行い、『仏説阿弥陀経』を読経します

